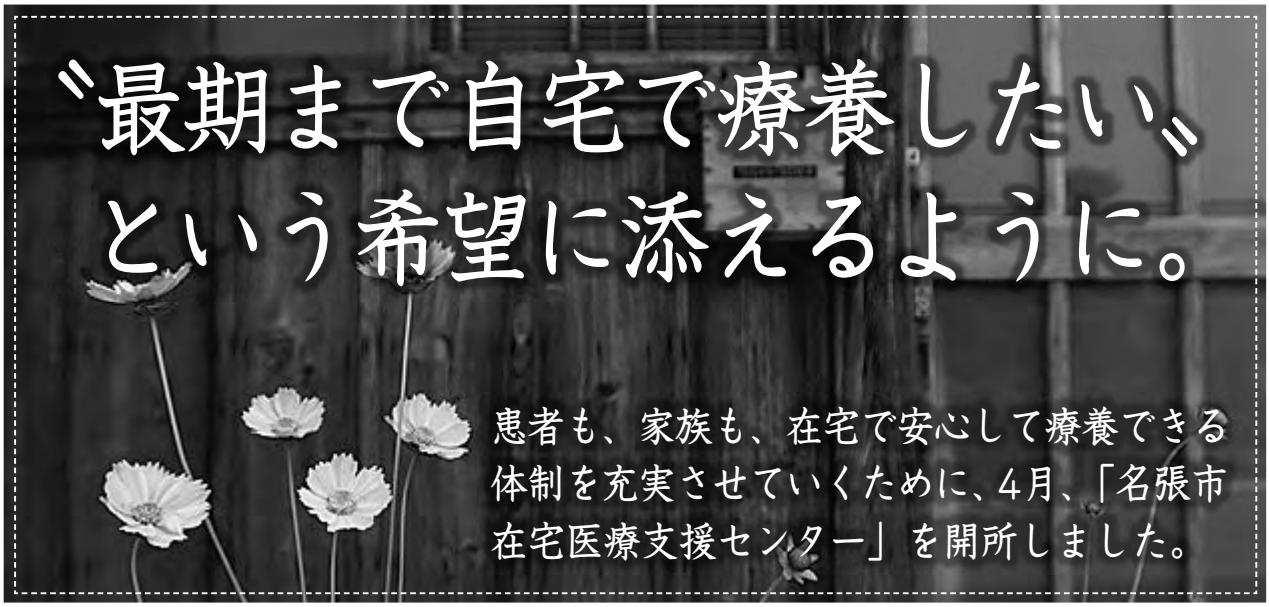
広報 なばり
市政と暮らしを結ぶ情報紙
4－4号
No.906
毎月4回発行(日曜日)
ケータイHP
2011年(平成23年)　4月24日㊐発行

主な内容
1～2……在宅医療支援センターを開所。在宅医療の現状や課題
3……ひまわり、かがやき催物、やなせ宿催し、リバーナホール催物
4……木造住宅耐震診断、水洗便所などを改造する資金の支援制度

発行／名張市企画財政部広報対話室　〒518-0492 名張市鴻之台1-1　☎0595－63－7402　pr@city.nabari.mie.jp　HP http://www.city.nabari.lg.jp



市は、「名張市在宅医療支援センター」を4月に開所。名賀医師会に運営を委託しています。在宅医療（療養）が必要な患者やその家族が安心して生活できるように、在宅医療についての相談や、在宅医療の総合的な支援をするための窓口となります。また、医療機関や福祉関係機関と連携して在宅医療の充実に取り組んでいきます。

問 地域医療室　☎63－6970

■なぜ、在宅医療なのか？

現在では、多くの人が病院で最期を迎えています。そんな中、人生の最期は自宅で過ごしたいと希望される人が増えてきているといわれています。

市民の皆さんに、「自分に介護が必要になったとき、どこで介護を受けたいか」と聞くと、7割の人が「自宅で」と回答。また、「家族に介護が必要になったとき、どこで介護を受けさせたいか」との問いには、6割の人が「自宅で」と答えています（※1）。

一方で、「あなたは自宅で最期まで療養できるとお考えですか」との問いに「可能である」とした人は1割に満たないという結果になりました。「困難である」とした理由で最も多いのは、「症状の急変時に病院へ入院できるか不安」、次いで、「在宅医療を見守ってくれる体制が整っていない」「介護してくれる家族がいない」「往診してくれるかかりつけ医がいない」などとなっています（※2）。

このように、自宅での介護を望む人が多いにもかかわらず、多くの人が〝最期まで療養できる体制が整っていない〟と感じています。

こうした中、平成21年度から医師会や歯科医師会、薬剤師会、社会福祉施設、保健福祉関係機関、市などで構成する地域医療（ケア）整備検討委員会で、在宅医療についての勉強会や先進地視察などを行う中で、現状を分析し、課題を整理してきました。

■在宅医療支援センターとは？

自宅での療養に関する心配や不安について相談に応じるのが、4月に開所した「名張市在宅医療支援センター」です。名賀医師会に運営を委託し、訪問看護・訪問介護などの介護サービスの情報や医療費・介護費用などについての相談に応じるほか、かかりつけ医との調整なども行います。

また、自宅で治療や福祉サービスを安心して受けられる体制を充実させていくために、まずは、医療や福祉、行政、地域の連携を図っていくことが必要とされています。「名張市在宅医療支援センター」は、こうした体制づくりを進めていく役割も担っていきます（2ページへ続く）。

※1　名張市老人保健福祉計画（第4次改訂）・介護保険事業計画（第3次改訂）にかかる市民意識調査／平成20年／無作為抽出法／865人が回答
※2　第2次名張市地域福祉計画にかかる地域福祉に関する調査／平成21年／無作為抽出法／459人が回答

名張市在宅医療支援センターQ＆A

どんな相談ができるの？

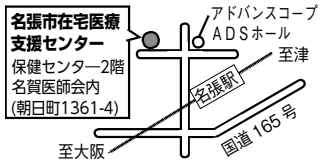
「退院を勧められたが、自宅での療養は不安」「自宅で介護したいが、通院させるのが難しい」「寝たきりの母を自宅で看取るにはどうすればよいか」など、自宅で療養する際に生じてくる、さまざまな心配や不安について無料で相談に応じます。

相談に対応してくれる人は？

相談には、福祉の専門職が対応します。また、在宅医療支援センターは医師会の運営なので、医療機関とのつながりが深いのが特徴。医療と福祉にかかわるさまざまな関係機関と連携しながら、より多面的な支援につなげていくことができます。

どこに行けば相談できるの？

保健センターの2階（名賀医師会内）に在宅医療支援センターがあります。
電話でも相談を受け付けています。



☎ 48 - 7840　FAX 48 - 7841
相談受付時間　午前９時～午後５時
※土・日曜日、祝日、年末年始は休日

5月の納税（納期限…5月31日㊋）　軽自動車税　問 収納室　☎63 - 7439

在宅医療の現状や課題は―

「在宅医療をすすめるフォーラム」より

3月21日、「在宅医療をすすめるフォーラム」が防災センターで開催されました。在宅医療を可能とする地域づくりを進めている東近江地域医療連携ネットワーク「三方よし」研究会の小鳥輝男さんをはじめ、三重大学人文学部准教授の稲川武宣さん、名賀医師会会長、伊賀歯科医師会代表、名張市立病院長、名張市長が在宅医療の現状や課題について訴えました。

名賀医師会会長　矢倉政則さん

在宅医療は今に始まったわけではなく、これまでも、訪問診療を行ってきた診療所・医院があります。今後は、在宅医療支援センターを運営しながら、医療と介護・福祉の連携を進め、チーム医療で臨めるよう支援していきます。まずは、3月に、医療と福祉のガイドブックを全戸配布しました。どういった施設があって、どんな取組みがあるのかを、市民の皆さんにまずは知ってもらおうというものです。

在宅医療の充実には、二次救急医療体制の整備は不可欠ですし、在宅医療を行う診療所・医院なども増えていってほしい。まずは、行動を起こし、在宅医療の必要性について認識を広めていくことが重要だと考えています。

伊賀歯科医師会代表　新谷継郎さん

社会福祉協議会と「お口の寝たきり予防教室」を開催してきました。ツバが出る体操など、できる限り家族と一緒にいろんなものを食べられるようにしようという教室です。ただ、在宅で療養している皆さんに、教室に出てきてくださいとは言えないですよね。在宅歯科検診事業を実施したこともありますが、今後、在宅医療を進めていくために何ができるのかを検討していく中で、介護関係者と情報を共有していくことが重要。介護関係と医療機関のスタッフが接する場をつくっていきたいと考えています。

名張市長　亀井利克

在宅での医療・介護を望んでいる人が多く、これをかなえていきたいと考えています。そのためには、救急医療、回復期の医療、そして在宅での医療が切れ目なく連携を図っていけるような体制が必要です。

在宅医療支援センターを中心に、医療・福祉分野の皆さん、そして、まちの保健室、民生委員・児童委員さんや地域づくり組織の福祉部会の皆さんをはじめとした地域の皆さんにもご参加いただき、地域に根ざした取組みとしていただくことが不可欠です。今後ともご協力をお願いします。

名張市立病院長　伊藤宏雄

公立病院としての最大の使命は二次救急医療であるとの考えのもと、市立病院の運営を進めています。院内の地域医療連携室に、看護師、医療ソーシャルワーカー、事務職などを配置するなどその充実を図るとともに、在宅医療支援センターと連携しながら、入院患者様が退院した後も在宅で療養いただきやすいよう支援していきます。また、自宅療養しているかたの急変に対応するため、引き続き伊賀地域の3病院による二次救急輪番体制を維持していくことが大切であると考えています。

東近江地域医療連携ネットワーク「三方よし」研究会 小鳥輝男さん

東近江地域では、地域の病院、施設の役割を分担する「クリティカルパス」を導入しています。患者さんは、急性期で少し回復したら、次の回復期の病院へ十分な連絡票を持って転院。さらに回復したら、またデータを持って維持期の施設へ。もっと回復したら「三方よし手帳」（医療情報と患者容態が詳しく記載された手帳）を持って自宅で療養するというものです。

こうした体制で大切なのが、医療者や福祉関係従事者の顔の見える関係です。わたしたちの地域では、訪問介護ステーションやリハビリに携わる人たちが積極的に活躍していますが、地域医療の充実に向けて少しずつでも活動していると、だんだんと仲間が増えてくるものだと思います。

三重大学人文学部准教授 稲川武宣さん

「人生の最期を自宅で迎える」ことを実現していくためには、地域の力は欠かせません。地域にどういった資源があって、どんな住民がいるのかで地域医療を進めていく方法は変わってきます。医師だけでなく、いろんな人がかかわっていかなければなりません。これは、一歩一歩、人と人とをつなげていく取組みであり、一朝一夕にはいかない課題。積み重ねが大切です。とりわけ、地域医療を盛り立てていこうという共通認識が必要とされているのではないでしょうか。

地域医療を支えるさまざまな人たちを結びつけていくことが求められています